

## ○常磐大学大学院人間科学研究科博士（人間科学）学位論文審査細目

制 定 2007年 1月24日 人間科学研究科委員会  
最近改正 2009年 2月18日

### 1 課程博士の研究発表

(1) 課程博士の学位を申請するまでに、申請者はコロキウムで少なくとも4回は研究発表を行わなければならない。

- ① 博士課程1年生で「人間科学特論」と「人間科学研究法」主に研究計画について発表する。
- ② 博士課程2年生で「博士論文研究（第4セメスター）」主に予備的な研究の成果について発表する。
- ③ 博士課程3年生で「博士論文特殊研究（第5セメスター）」博士論文の内容に関連する研究成果を発表する。
- ④ 公聴会 博士論文の内容を発表する。  
この結果をもって論文提出資格の確認をする。確認された者を「博士候補者」とする。また、公聴会を上記③のコロキウムで代えることもできる。

注 上記の発表内容は原則である。それぞれの院生の研究の進展具合によってその発表内容は異なる。

コロキウムにおけるそれぞれの院生に対する評価は別に定める。

### (2) 課程博士の学位申請

- ① 申請者は、学位論文概括書、仮綴じした主論文と参考論文について、研究指導教員の確認を経る。
- ② 申請者は、学位論文予備審査願、学位論文概括書4部、仮綴じした主論文4部および参考論文4部を学生支援センターに提出する。
- ③ 研究指導教員は、学位論文提出資格要件確認書を学生支援センターに提出する。  
なお、学位論文提出資格要件確認書が「否」の場合は、次セメスターに再提出する。
- ④ 研究科委員会は、予備審査委員会（3名）の設置をする。
- ⑤ 申請者は、公聴会（コロキウム）での発表（概括書に基づいた学術研究報告）を行う。
- ⑥ 予備審査委員会は、論文などの査読をし、審査委員長は、結果報告書を研究科委員会の1週間前までに学生支援センターに提出する。
- ⑦ 予備審査委員会は、研究科委員会において、予備審査委員会の結果を報告する。
- ⑧ 研究科委員会は、予備審査委員会の報告が「合」の場合は、申請者を学位候補者として認定し、学位論文審査委員会（5名）の設置をする。なお、予備審査委員会の報告が「否」の場合は、次セメスターに再提出して予備審査委員会の審査を受ける。
- ⑨ 申請者は、学生支援センターに学位申請論文等の提出をする。

### 2 論文博士の学位申請

- ① 論文博士の学位を申請する者は、学生支援センターに学位論文提出資格審査申請書類等の提出をする。
- ② 担当教員は、研究科委員会に論文博士申請の報告（概括書を含む）をする。
- ③ 研究科委員会は、学位論文提出資格審査委員会（3名）の設置をする。
- ④ 申請者は、公聴会での発表（概括書に基づいた学術研究報告）をする。
- ⑤ 学位論文提出資格審査委員会は、申請書類等の審議をする。
- ⑥ 審査委員長は、申請書類等の審議結果報告書を研究科委員会の1週間前までに学生支援センターに提出する。
- ⑦ 研究科委員会は、学位論文提出資格審査委員会の報告が「合」の場合は、学位候補者として認定し、学位論文審査委員会（5名）の設置をする。なお、学位論文提

出資格審査委員会の報告が「否」の場合、次セメスターに再提出して、学位論文提出資格審査委員会の審査を受ける。

⑧ 申請者は、学生支援センターへ学位申請論文等の提出をする。

### 3 博士論文の審査

① 博士論文の審査は、論文審査と最終試験（口述試問）で行う。

② 論文審査および最終試験（口述試問）は論文審査委員会が行う。論文審査委員会は主査1名、副査4名以上で構成する。

③ 論文審査と口述試問はそれぞれ独立に評価する。

④ 各委員は、論文を査読し、それぞれ評価をして別紙の博士（人間科学）学位論文審査票を作成して口述試問までに審査委員長に提出する。

⑤ 委員長は審査委員会を開催し、各委員と協議の上総合評価を行う。

⑥ 委員長は、研究の概要（1000字～2000字程度）および審査の概要（1000字～2000字程度）ならびに総合評価を博士（人間科学）学位論文審査報告書に記載し、研究科委員会に報告する。

⑦ 研究科委員会は、論文審査委員会から提出された「博士（人間科学）学位論文審査報告書」と各委員の報告に基づき最終審査をする。

### 4 論文審査の評価項目

博士論文の評価は以下の項目について行う。

#### （1）書式について

- ① 論文の構成
- ② 論旨の明確さ
- ③ 文章の表現

#### （2）論文の内容

- ① 研究題目  
研究内容を明確に示した題目となっているか。
- ② 研究目的・研究課題  
研究目的・研究課題について詳細かつ十分な情報を明記しているか。
- ③ 研究目的に関わる理論的背景と関連する先行研究  
問題としている研究領域に関連する文献・資料を十分に収集・分析しているか。  
研究の理論的背景をきちんと述べているか。
- ④ 研究方法  
研究方法（調査、実験など）、研究場所、研究期間、研究データ収集法などを詳細に明記しているか。
- ⑤ 結果  
研究課題を明らかにするために適切なデータ処理が行われているか。  
結果から導き出された事実をきちんと述べているか。
- ⑥ 考察  
研究目的がどの程度達成されたのか、研究結果に基づいた考察がなされているか。  
研究結果の妥当性の検討が行われているか。
- ⑦ 研究の意義、研究の倫理的課題  
研究目的が明らかになることはどのような意義があるのかを記しているか。  
研究課題、研究手法の倫理的問題が十分に検討されているか。
- ⑧ 将来への展望  
将来への展望がなされているか。
- ⑨ 総括  
研究全体についての総括が行われているか。
- ⑩ 要約

- キーワード、研究目的、方法、結果といった内容が簡潔明瞭に要約されているか。
- ⑪ 引用文献  
引用した先行研究がリストとして作成されているか。  
著者名（アルファベット順または五十音順）、年、書名・論文名、出版社・雑誌名、巻、号、ページなどの出典を記しているか。
- ⑫ 補足  
研究計画に関わる書類（研究資料、生データなど）を補足資料として添付しているか。
- 5 最終試験（口述試問）の評価項目  
最終試験（口述試問）の評価は以下の項目について行う。
- ① 論文内容を短時間で明確に説明できたか。  
② 審査委員からの質問に的確に答えられたか。
- 6 評価  
論文および最終試験（口述試問）の評価はそれぞれ4段階評価とする。
- A 優れている（合格）  
B 普通（合格）  
C 劣っている、または大幅な修正を要す（再提出・再評価）  
D かなり劣っている（不合格）
- 7 総合評価  
論文審査委員の協議に基づき論文および審査の要旨ならびに審査の総合評価を博士（人間科学）学位論文審査報告書に記載し研究科委員会に提出する。  
研究科委員会の審査結果に基づき、合格で修正のある場合のみ期日を設けて修正させる。再評価の場合も同じである。再評価の場合、論文審査のみとする。

#### 附 則

- 1 この細目は、2007年度入学生から適用する。
- 2 この細目の改正条項は、2009年度入学生から適用する。